

国民生活に重大な支障を及ぼしている。この法律を改正して最大誤差約24時間の「越日数方式」とすることを国に求める湯沢町大字土樽南雲宗雄氏からの陳情。

### 議会中以外に行われた委員会報告

平成22年5月21日  
1 平成22年度湯沢町生涯学習計画と文化振興について。

例年と同様、生涯学習の目標像は「人が育ち、地域を育むまち」目標は「自立する湯沢町民の育成」であり、「学ぶ」「活かす」「広げる」「支える」をテーマに各種事業を展開する。新たに総合型地域スポーツクラブ設立準備、雪国館のバリアフリー化と指定管理者制度導入に取り組み。童画のまちづくりの拠点施設、童画美術館の建設については担当部署だけでは対応が難しく、外部のコンサルを使い、人の動向や周囲の環境等をリサーチし、設置場所等を比較できる案を作らせ検討する

という説明があり、委員会からは「童画の拠点施設の建設は町長の選挙公約であり、担当部署が積極的に取り組まなければならない。いまさらコンサルの必要はない。15年間繰り返してきた区切りをつけるべきである」等の厳しい意見が出された。

他に「雪国館の指定管理者制度導入、スキー振興の嘱託指導員に地域の人材確保、町民がスキーを中心とするスポーツに取り組める環境整備、夏季学生合宿誘致のための早期の学校開放、総合地域スポーツクラブ設立の取り組み、選挙と体育行事の問題」等多くの意見が出された。

### 2 町税の収入状況と課税状況について

出納整理期間を1ヶ月残り、4月末現在、町税の現年分徴収率は全体で95・2%、滞納分を含めて75・2%となり、前年度の徴収率を既に確保している。大きなウェイトを占める固定資産税現年分で94・7%と前年を0.1%上回っている。国保税も現

年分が90・1%となり、前年より2.3%落ちているが滞納分を含めると74・8%となり前年を1.7%上回っている。滞納処分件数は前年より66件増えて、214件となったが、差押金額は前年と変わらない等の説明があり、委員会では「観光客の減少が続く、厳しい経済状況の中で徴収率が前年を上回る現象に対して税務課徴収班の努力を評価するとともに、その理由」等に対する質問があり、担当者からは「厳しい経済状況下ではあるが、公平平等の原則を踏まえ、納める人と納めない人の差があつてはいけないという観点から、納税者に極力接触し、お願いしている」ということであつた。

### 3 湯沢町総合計画の策定状況について

6月中旬に審議会では基本構想案を作り、7月末までに基本構想をまとめ議員協議会に示し、8月に基本構想パブリックコメントを行う。9月に議員協議会に図り、基本構想を議会に提出する。

基本構想承認後基本計画策定に入る予定であるという説明があつた。

### 4 国際交流の推進について

昨年より町長に対してマグナ側から訪問要請があり、併せて4月にはアメリカ独立記念日のパレードに湯沢からの訪問団用のパレード車を準備しているとの連絡があつた。7月1日から7月7日に教育長他2名をマグナアメリカ独立記念日訪問団として派遣する。

マグナからの受け入れについては、7月20日から7月23日にマグナ交流関係者4名が来町する。

マグナ側より、生徒派遣の募集が遅れ、応募者がなく今年度に限り生徒派遣を行わず、関係者の訪問となる。滞在時は町内団体等の協力により町民との交流を計画している。

今年のマグナへの派遣は、8月5日から8月18日、中学生7名、高校生1名、引率2名。昨年は応募後に新型インフルエンザの影響のた

め中止した経過を踏まえ、昨年募集していた中学3年生（現高校1年生）も対象に応募したという説明を受け、委員会では「国際関係において首長の役割は大きい、独立記念日の訪問要請に対して、なぜ町長は参加しないのか、国際信義に反することにならないか」等の質問があり、担当課長から「町長は全国観光地所在市町村協議会の総会で沖縄に行かなければならない」という回答があつた。



アメリカ独立記念日マグナ100周年記念パレードでソリトレイク郡長クルーンと交流スタッフと一緒に記念撮影